

令和元年 8 月 8 日
3 0 2 会議室

令和元年第 1 5 回 立川市教育委員会定例会

立川市教育委員会

令和元年第15回立川市教育委員会定例会

1 日 時 令和元年8月8日(木)

開会 午後 1時30分

閉会 午後 3時50分

2 場 所 302会議室

3 出席者

教育長 小町 邦彦

教育委員 松野 登 田中 健一

伊藤 憲春 嶋田 敦子

署名委員 松野 登

4 説明のため出席した者の職氏名

教育部長 大野 茂

学務課長 浅見 孝男

統括指導主事 寺田 良太

教育支援課長 秋武 典子

生涯学習推進センター長 五十嵐 誠

教育総務課長 庄司 康洋

指導課長 前田 元

統括指導主事 川崎 淳子

学校給食課長 南 彰彦

図書館長 池田 朋之

5 会議に出席した事務局の職員

教育総務課庶務係 笹原 康司

案 件

1 協議

- (1) 教育委員会の点検・評価について
- (2) 令和2年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について
- (3) 図書館の臨時休館について

2 その他

令和元年第15回立川市教育委員会定例会議事日程

令和元年 8 月 8 日
3 0 2 会 議 室

1 協議

- (1) 教育委員会の点検・評価について
- (2) 令和2年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について
- (3) 図書館の臨時休館について

2 その他

◎開会の辞

○小町教育長 ただいまから、令和元年第15回立川市教育委員会定例会を開催いたします。

署名委員に松野委員、お願いいたします。

○松野委員 はい。承知いたしました。

○小町教育長 次に、議事内容の確認を行います。本日は、協議3件でございます。その他は議事進行過程で確認を行います。

次に、出席者の確認を行います。大野教育部長、お願いいたします。

○大野教育部長 本日の第15回立川市教育委員会定例会への出席管理職でございますが、教育部長、教育総務課長、学務課長、指導課長、川崎統括指導主事、寺田統括指導主事、教育支援課長、学校給食課長、生涯学習推進センター長、図書館長でございます。

◎協 議

(1) 教育委員会の点検・評価について

○小町教育長 それでは1協議(1)教育委員会の点検・評価について、を議題といたします。

庄司教育総務課長、説明をお願いいたします。

○庄司教育総務課長 それでは、教育委員会の点検・評価につきまして、お三方の外部評価委員の評価がまとまりましたので、ご報告をさせていただきますとともに、ご協議をお願いしたいと思います。

きょう資料2つ用意してございますが、1つは冊子となっているもの、もう1つは全部で8ページものになりますがA3の綴じた形のもの、こちらに外部評価委員の評価をまとめてございますので、こちらの資料で説明をさせていただきます。

まず、教育委員会の活動、6活動の点検・評価、外部評価委員の評価でございます。この評価を読み上げる形でご報告させていただきたいと思っております。

まず、1「教育委員会の会議の運営に関すること」でございます。

評価いただいた内容でございます。引き続き定例会が月2回、計24回開催され、メールによる最新の情報の共有化に努めている。会議録や資料も迅速にホームページで公開され、市民に対する情報公開と説明責任を果たしている。30年度は教育委員研修会を2回企画し、新学習指導要領で大きく変わる英語教育やネット社会依存への知見を深めるなど、AI時代の到来にあたって見識を深めているのは、評価できる、と記載いただいています。

2「教育委員会の会議の公開等に関すること」でございます。

傍聴者数が、「特別の教科 道徳」の教科書採択など関心が高い案件があった昨年度よりもいくぶん減となったのは残念であった。ホームページや教育情報紙「たち」等で引き続き紹介する努力を重ねてほしい。一部の会議録の公開が3カ月を超えてしまった点もあるようだが、できる限り迅速に公開の作業を進める必要があろう。教育課題は年々多岐に

及んでいるため、審議にも時間を要すると思われるが、公開することで信頼度を高めることになる。

3「教育委員会と事務局との連携に関すること」でございます。

平成30年度は東京都市町村教育委員会連合会会長市運営の事務局として5月末まで効果的かつ効率的に運営を務めている。国・都・市間の教育情報の提供や把握は大事であり、新たな事務量の増加ではあったものの適切に対応できている。新学習指導要領も小中と出そろい、次年度にあたる31(令和元)年度は小学校の教科用図書採択の年でもあり、事前の十分な意思疎通を図る努力が欠かせないが、会長市として充実した事務報告と会計報告がなされている。

4「教育委員会と市長との連携に関すること」でございます。

総合教育会議が総合政策部と連携し、年3回開催されるなど多岐にわたり市長との協議・調整が行われている。けやき台小と若葉小との統合が平成30年4月に実現できているが、異なる学区の統合は様々な点で齟齬を生じるものである。それらに加え、不登校問題やいじめ問題などにも積極的に市長と協議・調整を行っており、連携は適切に行われており評価できる。今後とも「まちづくりは人づくり、人づくりは未来づくり、未来づくりは学校から」の理念に見合う施策を進めてほしい。

5「教育委員会会議の充実に向けた委員の研鑽に関すること」でございます。

連合会主催による研修会や管外視察研修会、都市教育長主催の研修など、委員の多岐にわたる研修への参加は評価できる。また30年度は教育長が文科省主催シンポジウムに登壇されたことは特筆に値する。教育委員の研鑽は、その専門性を活かしつつ職務を遂行する上でも必要であり、会議参加だけでなく現場見学や実践的な研修への参加を通して能力向上に努めることが重要であろう。独自の研修会で「ネット依存の現状」や「小学校英語教育」をテーマに取り上げたことは時期的に極めて適切である。

6「教育委員会による学校訪問、視察等に関すること」でございます。

既に30年度は新しい指導要領への移行期間に入っており、主体的で対話的、深い学びの実現が求められる教育課題や英語学習、オリンピック・パラリンピック教育、防災教育など現代的な課題が山積している学校現場であるが、委員による9校への訪問や2校の研究発表会への参加、道徳授業地区公開講座参加、運動会・学芸会参加など各学校の状況把握に努力しているのは評価できる。新設の若葉台小への訪問も実施され、適切な助言が行われている、というふうに評価をいただきました。

続きまして、個別の計画に基づく施策の評価でございます。まず第2次学校教育振興基本計画でございます。

1「学力向上」でございます。

「地域未来塾事業」と「スタディ・アシスト事業」が効果を発揮している。勉強時間の増加が児童で59.5%、生徒で61.2%は立派である。「授業が分かる」と回答した児童も68.7%と高く、さらに生徒アンケートで「家よりも集中して宿題や勉強ができた」67.5%は注目で

きる値である。都学力調査で上位層の増加とD層の9.3ポイントもの減も評価できる。立川スタンダード20、ICT教育、学級力スタンダード、教育力向上推進モデル校の成果を活かした授業改善が進みつつあると言えるだろう。また、小学校では英語教育の充実が喫緊の課題であり、英語指導力の高い教員の確保が学力向上には強く求められる。30年度実施の市の学力結果も拝見したが、複数の資料からの関係思考や算数のうるう年とカレンダーとの関連付けが弱いように思われる。応用面での学力こそ実社会で生きて働く力となる。

2「豊かな心を育むための教育の推進」でございます。

道徳授業地区公開講座への教職員、保護者、地域住民参加が計9,511名にのぼった点は素晴らしい。人権教育推進事業も中学2校が指定され、「人権の花」運動も小学校で進められている。「立川市民科」において応急救護講習や普通救命講習を6年と中2が全員受講したのは特記すべき成果である。シチズンシップ資質の育成や自己肯定感を高める諸活動をさらに強め、人権意識の強化の強化に努めることが大事である。

3「体力の向上と健康づくりの促進」でございます。

小学校低学年児童において依然として東京都の平均値を下回っている種目が多いが、男子が次第に平均以上の種目増加傾向にあり期待できる。女子の反復横跳び、立ち幅跳び、ソフトボール投げが下回っている点は依然として都市化の進展と関連があるかもしれない。活発に運動できる公園の一層の整備など都市計画との連携も大事である。30年度はオリ・パラ教育推進校を小19校、中9校と指定したことは今後の体力向上につながるだろう。「一校一取組運動」という分かりやすい目標を設けたことは有効である。

3-2「体力の向上と健康づくりの促進（質の高い学校給食の提供）」でございます。

食教育支援指導事業が256回実施で401クラス実施と年々増加しており、高く評価できる。アレルギー対応児童が124人と減っている点も喜ばしい。食中毒の再発防止対策と異物混入防止対策は徹底し過ぎることはなく、良質で信頼できる給食の提供により健康は維持される。また、農業生産者との連携により地元農産物の使用拡大を目指しており、新設共同調理場の整備も目途になっているとのこと、栄養士と教員とのティーム・ティーチングも工夫できているようである。立川らしい風土を生かした健康づくりを推奨したい。

4「特別支援教育の推進」でございます。

教育相談件数が来室549件と年々高まっており、就学相談件数も小学校で90件、中学校で30件前後を推移している。244件もの就学支援シートの提出があり、その率（17.1%）が伸び続けている。それだけ認知されてきたと前向きに捉えることもできる。「特別支援教室キラリ」を小学校全校で導入でき、350名まで受入できたことは素晴らしい。今後、乳児期からの「サポートファイル」も導入されるようで、立川市の特別支援教育の体制がより仕組みとして強化され期待できる。

5「学校運営の充実」でございます。

スクールソーシャルワーカーの市内小中学校25校への211回もの派遣や小5、中1への全員面接はかなりの努力となっており注目できる。また多様ないじめ解消に関わる事業も展

開できており、早期発見と対処が徹底して行われていることは高く評価できる。解消件数も小中共に 90 数%と高く、有効に働いている。大町市の中学生が立川市を訪問し姉妹都市交流の実施で英語による発表などやユニークな事業が行われている。懸念する点はゲームに時間を割く児童生徒が多く、読書をほとんどしない割合が依然として高い点である。

6「教育環境の整備」でございます、

ICT 教育環境の整備や老朽化した校舎の改修・整備が計画的に進められていることは高く評価できる。エアコン設置や便所の改修工事も計画通り実施でき、快適な教育環境の整備に努力されている。アクティブ・ラーニングや教員の仕事の効率化に対応するため、統合型校務支援システムの導入も図られているようで、期待できる。しかし、南砂小学校の大規模改修工事が床スラブ厚不足のため延期になった点は残念であった。

7「ネットワーク型の学校経営システムの構築」でございます。

地域の教育力を活用した教育活動は有効である。中学生の職場体験では多様な団体と連携協力が結ばれている。東京女子体育大学との連携の中でオリンピックによる講演会や卓球の技術指導などは憧れ効果が得られる。憧れとなる人物の話を目の前で聴く機会は、教育の場においてもっと増やすべきである。教育課題の改善には学校ホームページの充実やリーフレットの配布など市民・家庭への情報発信を図る努力は欠かせない。教員研修の充実を図るため実施されたマイクロソフト社や弁護士会との連携もユニークである。

8「小中連携の推進」でございます。

小学校外国語授業への中学校外国語科教員の派遣と配当時間が整ってきている。1 回 3 時間必要であり、年間 15 時間程度に達しており効果が期待できる。キャリア教育や立川市民科など小中連携の連絡会も 5 回開催されている。幼稚園・保育園・小学校・中学校という長めのスパンでの連携も課題となっているようで期待が持てる。小 1・中 1 プロblem の解消や SNS ルールの徹底など学校種をまたいで注意すべき現代的な課題は多い。

9「児童・生徒の安全・安心の確保」でございます。

登戸駅近くでの悲惨な事件もあり、この問題は再び重視されなくてはならない。防犯カメラの設置に加え 30 年度作成分から新たな地域安全マップの配布がされたようで評価できる。ブロック塀調査も実施され、立川市通学路安全プログラムの策定は優れた施策である。しかしながら抑止効果にとどまるため、犯罪をその場で防ぐ自助・共助の体制をさらに強める必要がある。通学区域変更や統合に伴う学区の防犯上の弱点をいかに関係者や児童生徒、住民間で共有できるかが安全な登下校の実現と絡んでいる。地震や大雨による通学路の弱点箇所を児童生徒・教職員間で共有しておくことが大切である。

○小町教育長 ここで一旦切らせていただいて、ご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。はい、伊藤委員。

○伊藤委員 基本的には外部評価委員からいただいたものですので、あくまで私は語句の訂正だけで、3-2「体力の向上と健康づくりの促進」のところで、親設共同調理場、新しいが「親」になっていますので、それだけです。

○小町教育長 ほか、ございますか。田中委員。

○田中委員 最初に私のほうからお礼を申し上げたいと思います。外部評価委員の先生方のコメント、これ全て丁寧に拝見いたしました。そういう中で、大野教育部長、庄司教育総務課長はじめ事務局の皆さん、外部評価委員の先生方に非常に丁寧に説明されておられること、このコメントから伺えます。改めてこの場をとおして事務局の皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございます。

もう1つ私のほうから申し上げたいのは、教育委員会活動の点検、この6施策については寺本先生が丁寧にご覧いただいて、高い評価をしてくださっているんですね。本当にありがたいなと思います。その上で教育委員会の施策の点検・評価、施策の1「学力向上」から施策の19「ハンディキャップ等のある子どもたちへの取組」、この19施策がありますが、この中で非常に高い評価をいただいている施策が6件もあるんですね。その上で実態を踏まえた問題点の指摘が5件、新たな提言12件のコメントを寄せていただいております。改めて寺本先生、朝岡先生、齊藤先生にお礼を申し上げたいなと思います。

大事なことは、これらのコメントをもとに令和元年以降の事務局で改善工夫を図る事案が幾つかありますので、是非一つ一つ丁寧に取り組んでいただけることをお願い申し上げます。

○小町教育長 ほか、ございますか。松野委員。

○松野委員 この外部評価委員の評価を見ていますと、やっぱり評価していただいてよかったなと思いました。良いと言われるところは自信をもってこれからさらに活動を豊かにしていく、そしてまた課題として指摘されている点もあります。これはこれからの課題としながら充実させなければいけないな、そういう思いで見えておりました。いずれも参考となる適切な評価、コメントであったというふうに、参考にしてまいりたいと思います。ありがとうございます。

○小町教育長 ほか、ございますか。よろしいですか。

では、続きということで、生涯学習からお願いします。

○庄司教育総務課長 それでは、第5次生涯学習推進計画にぶら下がる施策について説明をいたします。

10「いつでも、だれでも学べる身近な学習環境の整備」でございます。

児童館をはじめとした他団体との協力が志向され始めていることは、新たな試みとして評価される。昨年の外部評価で言及された庁内調整会議の活用を通じて、行政の枠組みを超えた連携の可能性を模索してほしい。毎年、新たな事業に取り組む必要はないものの、障害者理解や子どもの居場所づくり、学社一体事業の進展などについて、段階的・分析的な記述を心がけてほしい。

11「市民ニーズに合わせた生涯学習情報の提供」でございます。

「きらり・たちかわ」音声版の作成など情報提供のバリアフリー化が着実に進められている印象を受ける。「新規読者層」の開拓も、昨年から編集委員として加わっている子育て

世代の意見を生かすなど、多様な市民の参加を得る中で進めてほしい。昨年の外部評価にある行政からの情報発信ツールとしてだけでなく、市民との学習情報共有ツールとしての発展が期待される。

続きまして、12「地域人材と学習施設の有効活用」でございます。

「学校支援地域本部事業」によるコーディネーターが全ての学校に配置されたことを含めて、「学校支援ボランティア」、市民リーダーの活用などが着実に成果を上げているとの印象を受ける。「評価」にあるように「支援内容の質の向上」が具体的にどのような課題と方向性を持って進められるのか明示される必要がある。公共施設再編計画における学習館等の充実方策についても、具体的な見通しを持って取り組んでほしい。

続きまして、第2次図書館基本計画にぶら下がる施策でございます。

13「資料収集方針に基づいた計画的な蔵書構成」でございます。

図書資料費を減額なく維持し、蔵書の充実に努めている点は評価したい。また、昨年度改正された「立川市図書館資料（一般図書）保存・除籍等に関する基準」を運用し、保存スペースの有効活用を図っている点も評価できる。限りある保存スペースであり、多摩地域全域で資料保存を考える共同資料保存についても考えていく必要があろう。なお、DVDが充実してきており市民にとってはありがたい。今後も収集基本方針に則り、地域特性や施設の特色を活かした資料・情報の収集に努め、市民にとって有効で、かつ魅力ある蔵書の構築をお願いしたい。

14「図書館サービスの拡充」でございます。

庁内各部局や地域関連機関との連携した積極的な取り組み、国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスや宅配等ハンディキャップサービスの利用増、音楽配信サービスの開始、そしてリクエストサービス件数も順調に伸びている。多様化するニーズに対応している表れと考える。図書館サービスの充実という項目としては、より広範な評価が必要である。図書館サービスの基本となる資料の貸し出しやレファレンスサービスの利用件数はピーク時に比べ減少傾向にある。全国的な現象であり、数字だけでサービスの質を判断できないが、その一つの要因はデジタル化状況の進展であろう。そのためデジタル情報サービスの充実が課題となっているが、“本”の魅力を伝えることや情報リテラシー教育への取り組みなどをより充実させ、質を担保する取り組みを考えてもよいのではないかと。また、電子書籍の研究よりも地域資料等の電子化と発信を優先すべきであろう。

15「図書館の効果的な運営」でございます。

中央図書館が全館の管理統括館として機能し、全体をコントロールしている意義は大きい。市としての主体的なサービスの構築にも寄与している。図書館運営の“効率化”が謳われているが、その前に図書館の“効果的”な運営を意識すべきである。その点でも直営である中央図書館の存在は重要である。特に専門性の高い職員の育成と確保は不可欠であり、司書講習への派遣や各種研修への派遣など、今後も充実に努めてもらいたい。また、施設の老朽化への対応、滞在型図書館を意識した取り組み、近隣市との相互利用の拡大な

どは評価したい。図書館の運営は短期的な視点で考えることはできない。また、効率という視点のみで判断することもできない。長期的な視点に立った立川市図書館の運営とは何かを考える必要がある。そのためには中央図書館・地区図書館を含む図書館独自の自己点検評価があってもよいのではないか、ということでございます。

第3次子ども読書活動推進計画にぶら下がる施策でございます。

16「家庭や地域での取組」でございます。

少子化が進む中で、子どもたちに対する家庭や地域の関わりが重要になってきている。それをうまく機能させる役割を図書館は担っている。その点を踏まえ、子どもたちに対するさまざまな取り組みが行われていることを評価したい。立川市が市民団体や地域文庫とともに歩んできた成果でもあろう。一つひとつの取り組みの中で保護者への支援がなされ、保護者相互の交流が生まれている。地域の児童施設や地域文庫を含む関連団体とうまく連携し、将来を担う子どもたちの育成に努めてもらいたい。なお、乳幼児を持つ親の利用も多く、子育て支援に向けた取り組みの強化もお願いしたい。

17「学校と学校図書館の取組」でございます。

学校図書館に配置されている学校図書館支援指導員の存在は大きい。読書習慣を身に付けさせることや計画的な読書指導を行うためにも専門的人材は必要であり、その充実に努めてもらいたい。また、2006年に出された「これからの図書館像-地域を支える情報拠点をめざして-」の中でも学校との連携強化が謳われている。子ども読書活動の推進には公立図書館と学校との連携は不可欠である。立川市は以前から学校の先生との関係を強化しており、「図書館利用案内-『総合的な学習』や『調べ学習』で図書館を有効に使うために!」等を作成し支援を行ってきている。その点は評価できるが、学校図書館の充実にまだ課題が残っている。昨年度も指摘したが、文部科学省が定めた「学校図書館図書標準」に満たない学校がまだ存在する。更なる環境の整備とともに読書の意義を広く発信していく必要がある。

18「立川市図書館の取組」でございます。

子ども読書活動推進に関する図書館の取り組みとしては、学校への団体貸出、読書啓発のパンフレットや「読書ノート」の配布等、適切に行われている。また、POPバトルや都立砂川高校との共催で立川女子高校や市内中学校の生徒を巻き込んだビブリオバトルの開催も評価したい。小学校への読み聞かせボランティアの派遣及びボランティアの育成に努めている図書館の姿勢についても評価したい。ただ、小学校への月1回の配送便がありながら団体貸出の数字が減少している。小学校の統廃合が原因と考えられるが、この配送便の意義を無にすることのないように注視していただきたい。

19「ハンディキャップ等のある子どもたちへの取組」でございます。

夏休みや障がい者週間でのマルチメディアデイジーの紹介や体験コーナーの設置、また学校図書館担当者連絡会での教員へのマルチメディアデイジー等の情報提供はよい取り組みであった。利用の量という視点ではなく、利用が少なくてもハンディキャップのある子

どもたちへのサービスを地道に続けていくことが重要である。そのためにも地域にある関連施設（立川ろう学校等）と連携を深め、情報交換と支援強化に努めてもらいたい。立川市図書館は、多摩地域でも有数の外国語資料を揃えている。児童向け外国語資料も多い。この資料群を紹介し、有効に活用してもらえるような取り組みに期待したい。

報告は以上でございます。

○小町教育長 報告ありがとうございました。

これより質疑に入ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、伊藤委員。

○伊藤委員 細かいところで申し訳ないですけども、最後のページ16「家庭や地域での取組」というところで3行目「一つひとつ」というのは、どちらがいいのか分かりませんが、ひとつひとつ、ひらがなのほうがいいのか、その辺をご検討いただければと思います。

○小町教育長 庄司教育総務課長。

○庄司教育総務課長 私どもの行政で使うやり方としては、例えば計画とかはこのやり方ですね。漢字一つ、その後に平仮名ひとつ、というやり方が割かし多ございます。評価委員の方に確認をしまして、改めて、何か意味があるようでしたらということで確認をして、最終的な判断はお任せいただければと思います。よろしくお願いします。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 外部評価委員の先生の評価を拝見しまして、14、15の図書館サービスのところで、新しいものを追及するばかりでなくて、質を担保したりとか、長期的な視点に立った図書館の運営とは何かを考える、といったところは思いつかなかったというか分からなかったので、大変参考になりました。確かに新しいことを追及することも大事ですけども、やはり質のほうを、いいものは残してというところもやっていただけるといいのかなと思いました。

○小町教育長 ほか、ございますか。

大変に知見に富んだ評価をいただいています、これを最終的な点検・評価の中に入れ込みまして、点検評価表としてまとめていきたいと思っています。きょういただいたご意見、ご意見として承って最終的な報告書の形を整えてまいりたいと思っています。

ほか、ございますか。よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 では、ないようでございます。それではお諮りいたします。1協議(1)教育委員会の点検・評価について、は提案のとおり承認することにご異議ございませんか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、協議(1)教育委員会の点検・評価について、は承認されました。

◎協 議

(2) 令和2年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について

○小町教育長 続きまして、1 協議(2)、令和2年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について、を議題といたします。

前田指導課長、説明をお願いいたします。

○前田指導課長 前回、第14回の本委員会でご報告をさせていただいたところでございますけれども、本日ご協議いただく際の留意点等について、お伝えさせていただければと思います。学習指導要領の改訂の趣旨及び本市の児童の実態等に即して、今から申し上げる4点にご留意いただいた上でご協議いただければと存じます。

1点目でございます。学習指導要領で示されている目指す資質・能力を育てることができるかという点でございます。新しい学習指導要領では、育てていく力として、1つ目、生きて働く知識・技能の習得、2つ目、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成、3つ目、学びに向かう力・人間性等、と3つの柱が示されているところでございます。これら目指す資質・能力を育てることができる教科書であるかどうか、というところでございます。

続きまして、第2点として、学習指導要領改訂の趣旨でございます、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を進めることができる教科書であるかどうかという点でございます。

第3点目です。本市の児童生徒の課題として、4月からご報告させていただいてまいりました例えば、複数の資料を関連付けて検討することでありますとか、自己肯定感を育むことができるかどうか、そして主体的に表現の工夫をすることができるかどうか、そういった教科書であるかどうか、という点でございます。

第4点です。過去の採択における議論を確認させていただきました。その中で立川市の児童の実態を考慮した上で、分冊やノート型等の書式は避けるということでございましてとか、子どもたちが使う机の大きさ等を考慮して、判の大きさ等はどのようなものが適切か、そういった議論がなされてきていたという点でございます。ただいま申し上げました4点にご留意いただいた上で、ご協議いただければ幸いです。

それでは、前回教育委員会でご報告させていただきました資料、及び前回から今日まで、教育委員の先生方で調査していただいた結果、また、市民アンケート等を参考に、活発なご協議等いただければというふうに思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○小町教育長 説明ありがとうございました。

今の説明に対する質疑はございますか。はい、田中委員。

○田中委員 前田指導課長、非常に大事なポイントを押さえて説明いただいてありがとうございます。今4点お話があった、目指すべき資質・能力を育てる力、生きて働く知識・技能、あるいは思考、判断、表現する、これは今般の学習指導要領の中核になっていますので。あわせて主体的・対話的で深い学び、これも同じだと思うんですね。なおかつ当市の

課題になっている自己肯定感あるいは主体的な表現力ですかね。これも実は私どもが学校訪問する中で実感することですので、前田課長が適切にその辺りを押さえていらっしゃるということで本当に感謝申し上げます。

その上で4点目の分冊及び大判、これについては私のほうから意見を申し上げたいと思いますが、まず、分冊のほうについて申し上げます。分冊がなぜいけないのかということ、実は平成29年の小学校の「特別の教科 道徳」を採択するに当って、分冊はいけないんじゃないかと。その関係で、なぜ、どうしていけないのかということでは、課長のほうからお話があって、難しい点があったんだろうと思いますが、ただその時の経緯を申し上げますと、私のほうで指導課にお願いしまして、教科書あるいは副教材含めて2冊、3冊あるのはあまり望ましくないの、教科道徳、当時は副読本と言っていたわけですが、副読本以外に何を使っていますかと調査をかけたんですね。そうしたら当時20校あります、今は19校ですが、その中で道徳ノートを使っているという小学校が3校、あと残りの学校は全てワークシートを使っていますと。それであれば、やはり分冊でないほうがいいだろうと、そういう結論に至ったんですね。

そういう中で、分冊がそういうことで2つも3つもあるというのはあまり賢明ではないものですから、そういう点で使用の仕方が難しい、あるいは学習展開に制限がかかってしまう、あと書き込みスペースの使い方が難しい、あと机の上に2つあるのは指導上不便である、あと、その上で保管が大変だと、そういう5点の理由によって分冊はあまり賢明でないのではないかと、そんな私は理解をしているところです。

今申し上げたこと踏まえて考えなくてはいけないのは、これは全て使用上の便宜の問題なんですね。つまり教員の指導の仕方に係わってくる問題なので、教員がきちっとその辺りを指導すればある程度改善できるのではないかと。したがって今般の新しい教科書を拝見しますと、結構分冊も出てきているんですね。そこで改めて分冊にした場合に、何が良い点があるのかというので何点か申し上げますけれども、1つは、分冊にした場合に、学習の工夫を考えますと、どのような教員でも便利で活用しやすい。2点目は、使用しない場合は、分冊のうちの1冊を机の中に保管するように指導することによって、問題がある程度改善できるのではないかと。

あと、分冊は指導上の問題であって、分冊がいけないということはあまり賢明な判断ではないのではないかとということで、実は私事で恐縮ですが、私は日本道徳教育学会の研究をしているんですが、その中での話題としては、分冊を不可とすること自体がどうなのか。また、教員の指導上の問題を避けることになりはしないかと。あくまでも内容の選択や構成あるいは分量で議論するべきである。分冊が復活する場合には今後検討する余地があるだろうと、そんなことが研究学会で話題になったことがあるんですね。

したがって結論から申し上げますと、これからどんどん分冊になってくる、出版社関係の方向としては、どうも分冊の方向になっていくと、そういうことを伺っているものから、課長のおっしゃる分冊は賢明でないというのは一理あるんですが、その上で今後の

教科書の流れ、あるいは指導する内容の量からいって、分冊も検討する余地があるのではないかと。ここではあえて結論としてはこうでなければいけないと、そういうことは申し上げません。今後の検討課題と。

あと2点目の大判のことですけれども、大判がよろしくないということと、A5判でもいいのではないかと。その辺については私のほうから、まず大判がよろしくないというのは、1つ、情報が多くなるということがありますよね。今、課長がおっしゃったように机上にそれを置いてみて広がってしまうと学習作業が難しくなる。ただ、AB判であれば机上の確保は可能かなと思うんですね。そういうことを考えると、やはり大判はよろしくないというのは、今申し上げた3点を考えた場合に大判は考える必要があるのかなと思うんですが、ただ、今後の出版業界の流れ、あるいは文科省の考え方では、大判ではいけないと、それが先にありきということではないよ、という考えもちょっと伺っております。

したがって、大判が可能だということであれば、どういう理由があるかと言いますと、1つは、見やすく必要な情報量が盛られている。2点目が、きっちり感がなくて余白に書き込みがしやすい。3点目は、机上で邪魔になるものは教師の指導上の問題であるから、そこで適切に子どもに指導すれば改善できるのではないかと。あと、児童の負担を軽減するために、教科書をご覧になっていただくとおわかりですが、例えば東京書籍の生活科ですが、軽量の用紙を使っているんですね。ほかの出版社も似たような軽量の用紙を使っています。あと、A4の重さが適切であると。これは検討委員会のほうからも出ていて、いいんじゃないか、適当だよと。これは英語の東京書籍がそういうようにコメントが出ていましたね。

あと、皆さん心配するのはランドセルの問題だと思うんですね。ランドセルの大きさというのが、高さが33cm、横が23cm前後、A4サイズが十分に入るように作られている。重さが1,200g程度と。したがってランドセルを作っている会社も、これから大判ができてくるので、この考えで今後ランドセルを作っていく方向でいるんですよ、そんなお話も伺っています。

したがって私としては、結論としては、分冊ありき、あるいは大判ありきではなくて、もう一度そういう時代の流れ、あるいは文科省の流れ、あるいは教科書の量の問題等々含めて、今後検討する必要があるのではないかと、そんな私の考えです。

以上でございます。

○小町教育長 ありがとうございます。先ほど前田指導課長が申し上げました留意点と申しますか視点といいますか、今までの議論を踏まえまして、このような議論がされたということで4番目に関しては申し上げた、1、2、3番に関しては次期の学習指導要領を意識して整理していただいたかのなというふうにとっています。

なお、分冊、大判のことにしましては、過去そういうことだったわけでございますけれども、今回は今回の採択でございますので、そういった分冊、スタイルを含めて、教科ごとにまたご議論いただいて、総合的に判断をしていただければと思っています。あくま

で過去の議論はそういう議論があったということで、とどめていただければ幸いかなというふうに思っていますので、よろしくお願いいたします。

ほか、ございますか。松野委員。

○松野委員 初めから分冊云々ということでは全くありませんで、よろしいでしょうか。道徳の教科書検討の折り、子どもなぜ東書を選んだかといいますと、これからの道徳が子どもたちに考えさせ議論させる、もっと要するに深めていくようなそういう道徳ができないのか。ところが出された教科書というのは、みんな非常に親切丁寧な、教師の発問が、ずっと基本発問なり中心発問があり、これでは本来、教師と一緒に子どもたちと学ばなければいけない価値について教師自身が学ばない。そしてまた教科書を見ると、そのとおりやっていけばうまくいく。しかも別冊はノートがほとんどなんですね。

ですからそれを使えばもっと楽になって、いよいよ道徳や授業改善について、教師本来の仕事なのに、これはできなくなるぞということで、はじめから別冊ノートではなくて、それだったら、必要だったらワークシートでも教員の力でつくったらどうか、そういう気持ちをもって新たな道徳に臨んでもらいたいということで、いろんな丁寧なものは全部カットしていった、という考え方があったわけですね、私はその一人なんです。

そういうことで、初めから分冊云々という問題は全くありませんので、今、教育長おっしゃいましたが、必要とあれば、子どもにとって有益なものはどんどん活用していく、これが一番の私の基本的な考え方と思っています。

○小町教育長 ほか、ございますか。よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 では、きょうはそれぞれの教科ごとに各委員のご意見を賜わるという形で、結論は次回でございまして、そのような会議の進め方でまいりたいと思っています。

では、国語からまずご意見を賜わればと思っています。よろしくお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 まず教科書採択に当たって、国語ということですが、その前に一言お断りをしておきたいと思います。子ども教科書採択に当たって、各教育委員が全部で7点の資料をこれまで全部目を通しています。念のために簡単に申し上げます。

まず1点目は、令和2年から5年度使用の教科書調査研究資料、これ小学校ですけれども、令和元年6月に東京都教育委員会から出されたものです。2つ目が、小学校教科用図書編修趣意書（各教科）、3点目が、各者から出ている小学校教科用図書見本本、これは各教科に目を通しています。4点目が、令和2年度使用立川市立小学校教科用図書選定検討委員会報告書、5点目が、立川市立小学校教科用図書調査研究部会の調査結果、これも目を通しています。6点目が平成31年度、小学校教科用図書見本本、これは市民の方が非常に丁寧にアンケートに記載されておりますので、このアンケートも拝見しております。最後に7点目ですが、小学校19校ございますので、その中で各学校からアンケートが出されているんですね。それらを子どもが合わせて7点、各教育委員が目を通して今回、採

択に当たっているところです。

その上で教育長から国語をとということですので、私から国語について申し上げます。

この教科書会社の名前については、教育委員会の教科書調査研究資料に準じた言葉で申し上げます。例えば東京書籍であれば東書とか、学校図書であれば学図とか、そのような申し上げ方をしますので、お許しをいただきたいと思います。

まず国語について、東書、学図、教出、光村の4者、これはともに学習内容の改善・充実として、1つは、語彙指導の改善・充実がされております。2点目には、情報の扱い方に関する指導の改善・充実、3点目が学習観点の明確化、これはよくできていますね、それぞれが。とりわけ考えの形成を非常に重視している。なおかつ共通して力を入れているなということで非常に各者ともよく出ておりました。

その中で、立川はどうなんだということになるので、立川市の児童の実態、これを鑑みた場合に、複数の連続テキストと非連続テキストから見た目的に応じた情報を正確に取り出す、この指導を非常に重視しなくてはならないと、そういう教科書をもとにしながら、さらに子どもは研究をしていきたいということで、国語については考えているところでございます。

○小町教育長 ほか、国語に関してございますか。松野委員。

○松野委員 私は採択の視点の中の課長のおっしゃった第3番目の本市の課題に関連付ける、立川市も学力向上に向けて取り組んでおりますが、そのつど課題が出ております。特に、書く力の低下、それから言語についての知識・理解・技能、主語と述語の関係、こういった問題、そして大事なものは情報を取り出したときの比較・関連付けて読み取る力、この辺りのことを考えていきますと、私も幾つかの教科書の編集方針だとか、あるいは実際の指導の様子等を見ながら、一番ネックになってくるのが2年生、3年生辺りから。まず書くことについて言いますと、やはり書くというのは、書きたいことがあるときというのは、書く書き方が分かっている、こういうことをきちんと学習できるのはどこなんだろうなというふうに思いました。

そういう意味で、例えば光村図書ですと、2年生のもう上巻から問いと答えだとか、文章の組み立てが入ってまいります。そういうふうなことが3年、4年と、3年生では、言葉で遊ぼう、こまを楽しむ、感想をつたえ合うという3つのセットになっておりますし、下段では、「すがたをかえる大豆」、「食べ物ひみつを教えます」、つまり説明文で学んだこと、その中での文章構成あるいは問いや答え、こういったものを同じように書くことでカバーしていく。こういうふうな編集の方針をとっているんですね。ですから、ある意味、論理的に理解する、論理的に書くあるいは表現する、こういったことに非常に気を使って一本芯を通したような編集だなというふうに思います。

また一方、教育出版もなかなかいいなと思いつつ見ているのが、上巻で「うめぼしのはたらき」から「めだか」、「生き物ブック」を作ろう、ここで組み立てを考え、書く、伝え合おうというふうになっておりますし、また要点とか要約についてもきちんと扱ってい

ますね。その辺りが、どちらのほう子どもたちにとって書く力が身に付くような教科書になっていくのか、この辺り一つの興味深い点であります。そしてまた同時に教科書会社の編集方針も、もう少し調べてみたい、こういう気持ちであります。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 私は専門家ではないですけれども、どちらかというと親としてというか、一般的な考え方からちょっと全体的に目を通していただきました。教育出版、学習の進め方がとても押さえられて分かりやすい形になっているのではないかなという気はいたしました。ただ、同じような内容の例えば、「大造じいさんとガン」というような、同じことを題材として幾つかの教科書がやっておりますけれど、この中では、やはり光村の表現の仕方がとても丁寧で子どもたちにも分かりやすいのではないかなという視点も得られたことを報告しておきたいと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 私も専門家ではないのでそこまで、どの教科書もよく考えてつくられているかと。先生方も使いやすいように質問などもあって、よくできているなと思いながら見させていただきました。でも、その中でも教育出版や光村図書は、教科を横断的にいろいろな、科学、社会、道徳なども学習できるような教材であったりとか、進め方、そういうところがいいなと思いました。個人的には教育出版の挿絵がきれいだなと、そういうことも思いました。

○小町教育長 私から申し上げますと、立川市の子どもたちは読解力というところは大きな課題になっておりまして、それには文学的作品もそうなんですけれども、説明的文章がどうしても立川市の子どもたちにとっては苦手な分野というふうになっております。そういったところを意識して編集している教科書がやはり望ましいのではないかなと思っておりまして、そういう文学的作品と説明的な文章がバランスよく配置されているということに関しましては、光村図書の教科書がそういった面では全体、バランスがとれているかなというふうに思っております。

○小町教育長 では次、書写にいきます。松野委員。

○松野委員 書写は、一番毛筆の入門期となる3年生を私中心に見ていきましたら、筆の通り、つまり穂先がどこを通るのか、各者みんな丁寧な教科書になっておりました。教出、光村ともに、3年の筆運びの言葉が分かりいいんですね。光村は、強く・だんだん強くとか、ぐっ・すうっとか、教出の、すうっ・ぴたっ。それから、書写指導で大事なものは、ただ単に書くだけではなくて、考えたり確かめたり、字形の発見をしたり、そういうことがとても大事なんですが、光村は考えよう・確かめよう、教出も同じく、見つける・比べる、書いて確かめるようにし向けている。この辺りもなかなかいいなと思いました。点の書き方も、点も難しいんですね。ぽんと打つんじゃありませんよね。ぽんと入れてからしゅっとひくんですが、この書き方も実に見事に出ていますね、みんなね、感心いたしました。

ただ、教科書を開いていきますと、例えば光村の書写を開いていくと、「俳句をなぞろう」、

この俳句はどこから出た俳句かというのと、やっぱり国語の教科書なんですね。そのあとの自分の考えを書こうなんていうのは「すがたをかえた大豆」の一文であります。ということになりますと、やはり国語の教科書と書写というのは、ある意味一体感があるほうが子どもにとっては違和感なく使えるのかなという気もいたしました。とにかくいずれの者も大変工夫されている、感心いたしました。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 私もそれぞれの教科書、特に1年生のほうを拝見すると、私自身は思わず鉛筆とかペンを握り直してみたいなような感じで、これ私のときにちゃんと習った記憶が全然ないような気がいたします。もしちゃんと習っていれば、もうちょっとうまくなっているのではないかな。本当に各者それぞれ丁寧にされております。私としては教科書だけの内容を見て判断をすることができなかったというのが感想でございます。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 各者、筆の運び方とか本当に分かりやすくできていて、今の教科書はすごいなと思いながら見させていただきました。そんな中でも教育出版は導入もよくて、筆の使い方が分かりやすいかなと思いました。光村図書、文字の組み立て方とかが大変分かりやすくできているなと思いました。日本文教出版も文字のバランスが分かりやすいなと思いました。

○小町教育長 ほか、ございますか。田中委員。

○田中委員 書写については東書、学図、教出、光村、日文、この5者を拝見させていただきました。そういう中で硬筆あるいは毛筆ともに、姿勢であるとか用具の持ち方、使い方、点画の書き方、あるいは文字の組み立て方、大きさの配列、発展的な内容と、非常に共通して力を入れている、それが各者から見て取れます。そういう中で、そんないいところがいっぱいある。では、どんな考えしているんだということと言われるかもしれませんが、私ども今回の採択まで21日間ありますので、それまでに改めて良さと同時に、立川市の選定検討委員会の先生方あるいは調査研究部会の先生方の意見、これを重視しながら最終採択に臨みたいと、そういう考えを持っています。

○小町教育長 私からも、点画のつながりとか、そこら辺の丁寧な説明がされている教科書が多いなというふうに思っています。特に字形の日本語の漢字、平仮名含めまして美しい形であるのではないかなと思っていまして、それを意識させるような教科書、それはとても重要なな思っていますので、その視点で絞り込みを行いたいと考えております。

書写に関してはよろしいですか。

○小町教育長 次に社会科です。ご意見をお願いします。松野委員。

○松野委員 社会科は3者ですね。私がいいなと思っているのは東書と教出であります。いずれも問題解決的な学習が展開できるようになっている点がとてもいいというふうに思っております。立川市の課題の中には、調べてきたことを整理し、目的と手段、原因と結果の関係、社会的事象の特色や相互の関連、社会的事象の意味を捉える力の不足というのが

一つ課題なんですね。このテーマを考えたときに授業、もちろん先生方の指導によって教科書、生きるも死にもするわけでありまして、さあ、それにふさわしい教科書はどうだろうかというふうに調べてみました。

教育出版は、学習問題づくり、調べること・まとめること・広げるという学習過程が組まれております。さらに私、これはいいなと思ったのは、「この時間の問い」というのがあるんですね。これ、1時間の授業をきちんと焦点化するという意味ではとてもいいと思います。また東書のほうは、学びのまとまりごとに、つかむ・調べる・まとめるという流れが実に分かりやすく展開されています、例示されています。子どもにとっても学びやすく、見通しを持って学習ができるのではないかな、参考となるなというふうに私は考えました。

いずれにしても、まとめとか整理がありまして、調べてきたことを整理し、目的と手段、原因と結果の関係、社会的事象の特色や相互の関連について学んでいけるのではないかなというふうに思いました。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 私、歯科医で子どもたちがだんだん大きくなっていくところを見ていますと、特に小学校から中学校に上がる時にいろんなお話をします。その中で、社会をつくっていくのは君たちの仕事なんだよ、これからそういう視点で考えなければいけないんだよという話の中で、どちらかという選挙だとかという話もずいぶんしているんですけども、東京書籍の「新しい社会」の中で、政治・国際編というのがとても子どもたちにとって分かりやすくできているのではないかなという気がいたしました。拝見していて写真もとても良かったというような感じがしています。

ただ、検討委員会の報告書にもありますけれども、教育出版のほうは八ヶ岳のことが載っているという、これ立川の子どもたち、いろいろなその高原の牛乳だとかというのが載っているのが少し心を揺さぶられるような感じがして、この2つを興味深く拝見させていただきました。

○小町教育長 嶋田委員。

○嶋田委員 私も、どれもよくできているなと思って見させていただきましたが、やはり教育出版の八ヶ岳が載っているということと、すっきりと見やすく、学習しやすいんじゃないかなという印象を受けました。ただ、東京書籍のほうは分冊になっていて、1冊だとかなり重いのかなというふうには感じました。

○小町教育長 田中委員、お願いします。

○田中委員 先ほど松野委員から、東書と教出の良さが出たんですけども、日文もすごくいいんですね、教科書を拝見しますと。八ヶ岳の話も出ましたが、日文を拝見しますと、第3学年で身近な地域とか市町村の様子、あるいは地域にみられる販売の仕事と外国との関わり、人口問題、少子高齢化、国際化、さらには、世界の主な大陸と海洋、わが国の政治の動き、自然災害からの復旧や復興、こういうところは日文のほうも非常に丁寧に取り扱っています。それが、では東書なり教出はどうか、やっぱりそれなりに今申し上げた内

容は取り扱っているのです、共通して3者とも力を入れているなど、そんな実感を持っており
ます。

その上で立川市としてはどうするんだということがあるんですが、あくまでも私どもの
場合は立川市の実態から考えて、問題解決的な学習の充実を重視するとともに、取り出し
た複数の情報を比較・関連付けて読み取ることを重視した教科書、これを今後検討する必
要があるのかなと思って、今調査研究中でございます。

○小町教育長 私からも、大変に教員の年齢構成が若くなってきておりまして、団塊の世代
が抜けて若い先生が多くなって、若い先生の教育に対する情熱というのは大変評価できる
ところはあるんですけども、なにせ経験値が少ないので、教えることに関しましてもな
かなか、それぞれ戸惑いがあるという話は先生方からも伺っているところでございます。

そういったときに、学習を振り返る、まとめるというのは大変重要な部分で、知識・技
能を定着させる上でとても大切な要素なんですけれども、そこは、導入は結構、先生方工
夫しているんですが、振り返りとか、評価とか、まとめるというところは、どうしても先
生方、若い先生は手を焼いているという話がありますので、そこをまとめるページ、それ
ぞれ工夫はされているんですが、そこに対しまして、若手の先生がそのまとめのページ
を使いやすいということが立川市の教科書、社会科に関しては大きな選択の要素になるの
かなと思っていますので、そのところを重視しながら最終的な結論を出していきたいな
と思っています。次回、そのところを議論させていただければと思っています。

○小町教育長 では次、地図にいきます。松野委員。

○松野委員 これは本当に悩みますよね、甲乙つけ難い。検討委員会、調査委員会の報告等
見ますと、チェック表には、地図に表記されている文字がとても読みやすい。開いた感じ
が明るいですね。私も見やすいなというふうに、まず、第一印象受けました。さらには両
方、どちらがどうすぐれているのかなというのは、また私の課題にしたいと思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員

○伊藤委員 今、松野委員もおっしゃられたように、なにしろ慣れているという、これはい
いことかどうか分かりませんが、とても慣れていて見やすいかなという。こういう
見やすいものを、できれば子どもたちが小さなスマホの画面ではなくて、大きなところで
全体的に捉えるような形を考えたときに、情報があまりいっぱい入っているよりは、見や
すいものを勧めたいなという気がいたします。

○小町教育長 嶋田委員。

○嶋田委員 やはり帝国書院の最初の説明がとても丁寧でわかりやすく、子どももこれを
読むと、「なるほどな」と思うのかなと。それから、QRコードとか地図マスターとか、そ
ういうところは関心のある子はさらに深く学べるというところがいいかなと思いました。

東京書籍のほうも大変よくできていて、「くらべてみよう日本と世界」とか、おもしろい
イメージもあって、どちらもいいと思いました。

○小町教育長 田中委員。

○田中委員 先ほど松野委員から「悩めますね」というお話があったので、本当に悩みが尽きません。私のほうで東書あるいは帝国の2者、ともに何度も何度も拝見いたしました。そういう中で地図の基本的な知識あるいは地図帳の種類の1と2があるんですね。その上で日本と世界の地図の活用、あと目的別資料図等々、まさに東書と帝国が共通して力を入れております。そのことがこの地図の中から見て取れます。

それでは立川市としてはどうするんだということになるんですが、そういう中で先ほど前田指導課長からお話があったように、主体的・対話的な深い学びにつながるようなそういう教科書にしたいというので、まさにこの東書あるいは帝国書院をずっと見ていきますと、この主体的な学びの力、これを伸ばすように編集されているんですね。その上で立川市としてはどうするかということですが、先ほどもそれぞれの委員から出たように、どの児童も読みやすい、なおかつ理解しやすい、そういう教科書はどれなのか、そのことをさらに調査検討を加えて採択に臨みたい、そう考えているところでございます。

○小町教育長 地図に関してまさに地図帳であるべきだなというふうに私は思っていて、資料集は資料集で、またほかの教材もいろいろあろうかなと思っています。どちらを重視するかというと、やっぱり地図は地図帳なので地図の見やすさが大きな判断の基準になるのではないかなと思っています、そのときに、ユニバーサルデザイン含めまして様々な児童が地域の中に生活しておりまして、そういった子どもたちが一堂に会しているのが学校教育でございますので、そういった様々な地図の読み方に関して、そのときの見やすさというのが大きな選択のファクターになるのではないかなというふうに私は考えているところでございます。

○小町教育長 次、算数にいきます。ご意見いただければ、松野委員。

○松野委員 算数の教科書、各者ともに、問題があり、自力解決、集団検討、まとめといった基本的な流れを踏まえている教科書でありました。立川市の課題で挙がっているのが、数量の関係を数直線図に表わしたり、数直線図から立式して答えを求めたりするなど、図と式と関連付けて考える力の不足、あるいは立式の根拠を明らかにして考えていくことや、筋道立てて考える素地をつくる、こういうふうなことの改善を求めるようなコメントがありました。

私もこれ見ながら、また検討委員会の報告等見ますと、まず第一に気になったのが単元の配列ですね。特に算数の場合、倍数・約数のあとに単位当たりの大きさ、速さの単元が設定されていて、これが学びやすいんだという設定している会社が4者、東書、大日本図書、教育出版、啓林館。そういうふうな利点も踏まえながら、私は2者を絞っていくとするならば、東書、教出かなというふうに考えております。何と言っても教出のほうは、いずれも数直線をよく使った活動で筋道立った説明についても配慮してあります。そして東書は分野配列がとても学びやすい、そういうふうなことが根拠であります。

もう1つ気になるのは、今なかなか筋道立てて説明する、このことが難しいんですね、子どもは。もちろん算数関係の指導書を見ても、機能的なことがもっと対応できないのか。

そういう教科書もあるにはあるんですが、それをいいなと思うと、なかなかほかのことがうまくいかなかったり、私もこれ見ながら、ああ、どうしたものかなと思いながら、今のところ東書、教出、この2者を絞りながら今見ているところであります。これだったら立川の子どもたちが今言った課題に応じてくれるかなというふうに考えての調査をしております。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 それぞれの教科書が本当によく研究されているなという気があります。ただ、例えば学校図書の「考え方モンスター」、とてもおもしろいと思うんですけども、これが出てきたときに、これ何だっけというような感じで、どうもそれがすうっと結び付かないのはこちらの歳のせいなんでしょうか、ちょっと分かりませんけれども。

1年生から見ていきますと、算数が好きになるから分かりやすいという点では東京書籍の教科書が分かりやすく一生懸命そういうふうに出している。それからまた「マイノート」も5年生でも6年生でも分かりやすく、こういうふうにするといういい例が示されているので、とてもおもしろかったと、良かったなと思っております。全体的にも問題はイメージしやすく、まとめもやりやすい、工夫されている教科書が多いなという気がいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 それぞれの教科書に良いところがあって、専門家じゃないので分からないところもたくさんあるんですけども、東京書籍の「マイノート」のページは、やはり児童の参考になるかなと。それから、巻末にプログラミングや補充問題なども充実していて、挿絵もいいなと思いました。それから、教育出版はイラストもいいですけども写真もうまく使ってあって、やはりノートのまとめ方もありまして、「広がる算数」などは興味のある子どもにはいいのかなと思いました。

○小町教育長 田中委員、お願いします。

○田中委員 算数については、東書、大日本、学図、教出、啓林館、日文、この6者がございます。それぞれ拝見いたしますと、算数の目標である数学的な見方・考え方、この中において事象を数量や図形及びそれらの関連などに着目して捉えているんですね。根拠をもとに筋道を立てて考え、なおかつ総合的・発展的に考えるように、それぞれ6者が工夫されているなということで本当に感心して拝見いたしました。

そういう中で立川市としてはどうするんだろうということですけども、実は当市の大きな課題の中に、読み取った内容や背景と理解、あるいは推論して問題を解決する、これが弱いんですね、課題があります。したがって、今申し上げた読み取った内容や背景と理解、推論して問題を解決する、そんな教科書を突き詰めて調査研究したいなと考えているところです。また同時に、ご承知のように令和2年度からプログラミング教育、これが実施されますので、プログラミング教育や発展教材、こういうことにも注視しながら調査研究を進めたいと、そう考えているところでございます。

○小町教育長 算数に関しましても、先ほどちょっと申し上げたんですけれども、公教育ということで多様な子どもたちが同じ教室の中で学んでいるということでございます。カリキュラム・マネジメントということもございまして、日常生活の中の題材を教材化してそれを授業の中で教科学習として学ぶ、とても重要な視点だというふうに逆に子どもたちの興味・関心から教えられているところでございます。

具象から抽象へという思考の流れはあるわけでございますけれども、やはり小学生段階ですと、どうしても日常生活の中の算数的要素を、逆に言うと算数の授業の中で取り上げて、それを学びに転換する。それが子どもたちの関心・意欲を高めて、知識・技能の定着に結び付くというふうに思っておりますので、そういった視点でまとめられている教科書がよろしいのかなと思っておりますので、その視点で絞り込みを行いと思っております。

○小町教育長 では次、理科にいきます。松野委員。

○松野委員 私は立川市の課題が、特にグラフ等から必要な情報を取り出し比較・関連付けることを通して全体の傾向を読み取ることができる力を育てる、このことを課題にしているわけではありますが、私はその観点からすると、ああ、いいなと思いながら見たのは教育出版、それから大日本であります。

今回の指導要領の改訂によって比較しながら調べる、関連付けながら調べる、これが少し進化しております。関係付けながら調べる、根拠のある予想や仮説を発想する力、根拠をもって発想する、予想する、仮説を出す。教育出版の中にはこれを、すごく私、気に入った解説がありまして、国語で学んだことを生かそうということで比べる言葉、関係づける言葉、見通しを持つ言葉を生かせるようにしているんですね。この考え方で理科を学ぶなら必要な情報を取り出して比較・関連付ける、そういう力も出てくるのではないかなと期待しているわけであります。本の中のイラストにも、「アサガオもヘチマも、めしべのものが実になるんだね」。つまり過去の、既習した学びが活かされていく、関連付けられて生かされていく、こういうふうなことが本の中にはふんだんにあります。そういう意味では、これは使いやすいなというふうに思いました。

いずれも、大日本図書も教出も、問題と結論を結びつけておりますし、分かりやすいというのが一番の印象であります。東書もなかなか、問題もあって実験・観察・まとめがあってこれも分かりいいんですが、私は結論づけるなら教育出版の学んだことを生かす、このことがすごく学びやすいヒントになっているというふうに思います。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 私、理科が子どもたちの生活、また、これは何だろうなというところから、いろんなことに興味を持って進んでいただくという考え方で教科書が作られていると、よりいいかなというふうに感じているものです。主体的・対話的で深い学びということから考えると少し外れるところはあるのかもしれないですけども、例えば教育出版の、いつも私、6年生の水溶液というところを拝見するんですね。この中で特に教育出版の水溶液のいいところは、塩酸の中にアルミ箔を入れると、それが溶けてなくなる。これはどうなっ

たんだろうかということで、じゃあそれをもう一回調べてみたらというような、そういうような形の考え方がとても丁寧に出ているということ。それから、それをやるには実験が必要だと思うんですけども、ゴーグルを必ず、メガネをしてというのを全ての絵に描いて注意する。どうしても子どもたち、適当にやるようになるといけないからという。ほかの会社ではゴーグルはしているんですけども、ゴーグルをしろと書いて、ゴーグルだよと書いてないのが、ここが丁寧に載っているのがとても好感をもてました。

全体的にも例えば、一般の方々の中で多少の抵抗があったんですけども、5年生のほうで、子どもにおっぱいをあげているところが、少し抵抗があるというふうに書かれていたところもありますけれども、私はそれは素直なところではあるのではないかなというふうに思って、私はいいと思っています。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 どの教科書も本当にきれいで見やすく、大変勉強しやすそうな教科書だなと、うらやましいなと思いながら見させていただきました。東京書籍は大変見やすいですけども、ちょっとサイズ大きいのがどうなのかな、いいのか悪いのかということと、学校図書のプログラムというページがわりと分かりやすかったなと思ったのと、分かりやすく内容も科学者の言葉が載っていたりするものもおもしろいかなと思いました。

教育出版の、私もその写真はべつにいいんじゃないかなと。子どもの頃にいろんなものを見る機会があったほうが、かえっていいんじゃないかなと思いました。啓林館もシンプルで読みやすい教科書だなと思いました。

○小町教育長 田中委員。

○田中委員 今の大日本あるいは教出について、それぞれ良さが出たんですが、私は東書あるいは学図、啓林館、これが非常にいいと思っているんですね。なぜかといいますと、理科の見方あるいは考え方、これを働かせながら知識及び理解、技能、そういうものをしっかり習得できるように編集されていますし、あわせて、先ほど前田課長からご指摘があったように、思考・判断・表現、こういうことをするとともに、同時に学習を通して理科の見方・考え方が豊かにしかも確かに身に付くように改善工夫された教科書だなと考えております。

その中で立川市としては、より主体的な問題解決の活動、これが行われるような教科書を選択していきたい、そんなふうに考えておりますし、あわせて今後一つ一つもう一回丁寧に見ていきたいと思っているところでございます。

○小町教育長 理科に関しまして、立川市は科学センターの子どもたちが年々増えておりまして、意識調査をしても、理科好きの子どもたちが立川市の場合多いということでございます。様々な分野を網羅しております理科に関しましては関心意欲が高い分野かなというふうに思っています。もちろんそんなときに大事なのは思考・判断・表現というところが大事になってくるわけでございますけれども、知識・技能というのは、実は理科の重要な構成要素を示しておりまして、そこをまずしっかりと身に付けるということは自分の新し

い分野を習得する上でも、次の分野を深める意味でも、とても重要なものになってくるなというふうに思っています。そんなことを考えている中で、教育出版の特に重要な言葉に関して黄色でマーカーが引いてあって強調してある、とてもいい工夫かな、なんていうふうに思っています。そういった言葉をしっかりと定着させた上で、自分の興味・関心を広げて、思考・判断・表現に結び付ける、そういうのが思考の流れとしては重要な部分かなと思っております。

○小町教育長 では次、生活科にいきます。松野委員。

○松野委員 これは本当に各者がいろいろな工夫をしておりますから。ただ学習の面からみていきますと、私は光村、東書、教出と3者挙げてみたんですが、特に光村は学習活動の段階が分かりよくできているというふうに思います。ですからホップ・ステップ・ジャンプにあたるそういう段階が分かる。特に「おもちゃづくり」に私焦点を当ててみましたら、みんなそれぞれ工夫がありまして、例えば光村ですと、ふる、とばす、たたく、こする、つむ、ならべる、こういう動かし方で構成しているんですね。東書でいきますと、何でもくふうしよう、どこをかえたらいいの、とやっています。教出になりますと、ビューン、コロコロ、ビューン、そういう音と材料、そういったものを構成をしている。いずれにしても低学年に沿った間いかけであるなというふうに感心しております。

そしてその中でも、今の3者以外にも日本文教出版、これには、町のたんけんの中で、立川市の商店も紹介されている。これは結構、子どもは親しみをもって見るなというふうに思いますし、編集もなかなかいいなと思っております。

○小町教育長 伊藤委員。

○伊藤委員 本当に私も分かりません。それぞれ教科書を見せていただくと、とても楽しく、最初から最後まで見せていただいて、うーん、というのがすいません、素直な状況です。ですからこれからもう一度、じゃあこれをあえて選ぶなら、という点で考えなければいけないなというふうに思っております。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 私もまだ生活科がしっかり見きれていないんですけれども、どこも写真やイラストを上手に使ってあって、大変見やすくできているかなと思いました。でも、虫なんかを扱っているのは、今の子どもたちは虫に触れる機会とかも少ないのかなと思うので、いいかなと思っているところです。

○小町教育長 田中委員、お願いします。

○田中委員 生活科については、東書、大日本、学図、教出、光村、啓林館、この6者があるんですが、それぞれ教科書を拝見いたしますと、家庭及び地域の生活、あるいは自然とふれあった関わり、あるいは自分の成長、安全に関する内容等々、それについて非常に丁寧に取り扱っているんですね。なおかつ子どもに分かりやすい教科書として編集されているなと感心しております。

そういう中で、立川としてはどうすればいいんだろうということになりますが、今、立

川は幼保小連携、これを重視しております。したがって幼保小連携をもとに検討を加えながら、なおかつ子どもの主体的な学びを支え、そして教員を支援するとともに、他教科とのつながり、そういうものを意識した教科書であるといいなということで、今後検討をさらに加えていきたい、そう思っているところでございます。

○小町教育長 松野委員。

○松野委員 私、この生活科を見たときに、指導要領の中の指導計画の作成に当たっての配慮事項というのがあるんですね。これを見ると、他教科等との関連を積極的に図って指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、主体的な学びの視点による学習指導をするんだ、そういう内容が出てくるんですが、さあ、そう見て、どの社もみんな例えば光村だと「ひろがるせいかつじてん」、東書は「かつどうべんりちょう」、教出も何かありましたね。

ところが日本文教出版、これが本当に最後のほうにいきますと、ここに「考えるわざ」「かんさつのしかた」「まとめ方」「はっぴょうのしかた」「インタビューのしかた」、ほとんど国語科でやっている内容をそのまま、ここにもスライドしている。今は何と言ってもカリキュラム・マネジメントで、各教科それぞれ独自なことをやっても、なかなか子どもは、だけどこうやって学んだことが他教科にも生かせるということが教科書でもつなげている、こういうことは私、おっと思いつつ、これヒントだなというふうに感じております。また皆さんも見ただけであればありがたいと思います。

○小町教育長 田中委員。

○田中委員 今、松野委員から具体的にお話があったのですが、私は学校図書をずうっとみていますと、まず1つは上の部分の24ページから25ページ、ここに観察カードの例示が随所にあるんですね。なおかつ表現活動の参考になるようになっております。同時に、各単元に記載されている「ものしりノート」、これは貴重なものですね。活動の具体例ややり方が一方に分かりやすく示されておりますし、構成上の工夫では分量がやや多いですけども、内容な極めて精査されています。その上で生活科の上の114ページから123ページ、この巻末に「まなびかたずかん」、これがあるんですね。それを通して児童が主体的に学んだり発展的な学習につなげるように非常によく工夫されていました。そういう点で、児童が気付いたこと、あるいは考えたことをどのように表現するかについて、どの単元も具体的な表現方法が示されておりますし、かつ、言語活動の充実を図るように改善工夫されているなというので学校図書はみておりました。

今、一例だけ挙げましたけれども、他の教科書もそれぞれ非常にユニークな取り組みをしておりますので、もう一回私もはっきりと、時間をかけて研究していきたいと、そう思いますので、よろしくお願いいたします。

○小町教育長 生活に関しましては先ほど田中委員からもございましたとおり、立川市は幼保小連携ということで、幼稚園、保育園、今現状含めましてしっかりと連携をとって、それぞれの教育を組み立て直そうじゃないかという取組を行っているところでございます。

そんなことを考えますと、スタートカリキュラムをどのように取り上げているかというのが大きな判断のポイントになるかなというふうに思っています。それはスタートカリキュラムを厚くすればいいというわけではなくて、保育園、幼稚園も結構、社会性含めてかなり高度な教育を実は行っているという現状もあるわけですので、そういったことも踏まえながらスタートカリキュラムの扱い方、それから分量を含めまして、生活科の教科書採択においては大きなポイントになるかなと思っていますので、そのところをしっかりと判断して採択していきたいと考えています。

○小町教育長 では次、音楽にいきます。松野委員。

○松野委員 先生方の調査研究部会からの報告にもありますし、また市民からのコメントにもありました。教芸と教出、どちらも同じように文部省唱歌をともに扱っておりますが、教育芸術社のほうは、指導内容が押さえるべき共通事項が分かりいいという意見が寄せられているようですね。これは私も見て、担任もこれなら使いやすいなというふうに思います。そして日本、世界のそれぞれの音楽がバランスよく配置されていると、こういう点でいいなというふうに思いました。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 やはり教育芸術社のものは、1年間でこんな学習をするというのが大変分かりやすく、最後にふり返りのページもあって、そういう点が大変いいなと思いました。それから、音楽の歴史をつくった人などの記述もあるのがいいと思いました。

教育出版のほうも、ラミネートシートなどおもしろい工夫もあって、2年生などの「言葉あそび」とか「音のスケッチ」などということも大変私は使ってみたいなと思うような点もありました。ただ、バランスがいいのは、やはり教育芸術社のほうかなというところと、あと、これは要望というか、今の教科書は伴奏の載っているものが全くないので、少し簡単な伴奏だったら載せていただいたらいいのになと。私は子どもの頃によく自分で教科書を見て伴奏していたので、思いました。

○小町教育長 田中委員、お願いします。

○田中委員 音楽については教出のほうを拝見しますと、表現及び鑑賞の題材、あるいは言語活動、わが国や郷土の伝統音楽、諸外国の音楽の曲数、発展的な内容、こういうところに非常に力を入れて改善工夫されてましたね。そういう中で一方、教芸についてですけども、時間の関係でもって教出のほうについては具体的にページ数は申し上げなかったんですが、教芸について詳しく見ましたら、6年の4ページ、この中で身に付けたい力が明確な内容になっていましたね。題材名が児童にとって何を学ぶか分かりやすく書かれていました。あわせて、児童にとって魅力的で親しみのもてる容易曲想が多く扱われているかなと思っています。あと4年の48ページですが図形の楽譜、これが分かりやすかったですね。6年の21ページ、ちょうどここに吹き出しとか学習マーク、これがついているんですね。つまり学ぶ内容が明確にされている、そんな工夫をされてました。

そういう点で今後私どもとしては、この選定検討委員会及び調査研究部会、さらには各

学校から出されている教員のアンケート及び市民の皆さんのアンケート、そういうことをもとにしながら、しっかりと今後、調査研究を重ねていきたいと、そういうふうを考えておるところでございます。

○小町教育長 音楽に関しましても、専科以外の教員が担当するということもあるわけでございますので、そういった面に関しましては、教員が使いやすいというところは大きな採択のポイントになろうかなと思っています。全校に教科書を回覧して見ていただいたということもございますので、そういった先生方のご意見なども大きなポイントとしながら、採択をしてまいりたいと考えているところでございます。

○小町教育長 では次に図工でございます。嶋田委員。

○嶋田委員 図工、開隆堂出版のほうはとても分かりやすく使いやすいのかなと思いました。つながる造形、みんなのギャラリー、学びの資料なども大変おもしろいなと思いました。日本文教出版のほうは、「つながりひろがり」、地域とのつながりとか視野を広げるのに大変いいページがあるなというふうに思いました。どちらも工夫されていて、いいと思いました。

○小町教育長 ほかございますか。田中委員。

○田中委員 図画工作については、開隆堂、日文、この2者とも共通していいなという点は、この表現の内容別題材、あと鑑賞の題材数、作品数、表現・鑑賞活動の過程、表現技術、用具の使い方、これを開隆堂も日文もよく工夫されておりましたね。

そういう中で私どもとしてはこれからどうしようということで今考えている中で、子どもたち一人ひとりが自分のイメージを持つこと、それが具体的に示せることが、ある程度教科書の中から読み取れる、また学べる、そういうものを今後検討しながら採択に臨みたい、そのように考えているところでございます。

○小町教育長 松野委員。

○松野委員 開隆堂と日本文教出版、これを比較していきますと、確かに開隆堂、実に工作の手順が分かりやすく使いやすいですが、私も指導要領をみていきますと、発想や構想する、技能を働かせて表わす、鑑賞する、こういう絵や立体、工作に表わす活動についてこういう視点が出ているんですね。それで私は、日本文教出版はこういうふうな構成をしているんですね。子どもたちがいろんな発想を豊かに自由に出てくるように。なるほどなあと思いつつ、また開隆堂も、そういう意味ではずうっと昔からそういうことをしっかりやってきておりますので、非常に私も悩むところなんですね。だからもう少しこれ調べてみたいなと思っております。

○小町教育長 図工に関しましては、主たる教材であることは教科書の役割であるんですけども、どちらかというと感性を育てるという教科ではないかなと思っていて、そういった意味で、あまり説明し尽さないほうが逆に言うと子どもの自由な感性を伸ばすのではないかな。特に小学校のうちは本当に発想が豊かでございますので、それを逆に引き出すヒントになるような教科書づくりが必要かなというふうに思っていますので、そういった

視点から、私は採択に関しまして方針を出していきたいと思っているところでございます。

○小町教育長 では次、家庭にいきます。はい、嶋田委員。

○嶋田委員 東京書籍のほうは、以前紹介していただいたように、見開きに上手にまとまっていて、大変上手に編集されているなと思います。雑誌のようにきれいな感じになっていて、眺めているのも楽しいかなと思いました。ただ開隆堂出版のほうは、下に一口メモ何かが結構あって、これを読むと、あっそうそう、そういうこと知っておいてもらいたいんだよなというようなことも散りばめられていて、また、見た感じも教科書らしくて、読んでも楽しいところがあって、どちらもいいなと思いました。

○小町教育長 ほか、ございますか。松野委員。

○松野委員 とにかく家庭科も専科を受けるなんてことは本当にもう難しい状況ですから、担任の先生方が使いやすい、そういう意味では今、嶋田委員がおっしゃった、見開きで、わかりやすく、なおかつ簡潔な東書が使いやすいのかなと私は思っておりました。

○小町教育長 田中委員。

○田中委員 家庭科については東書、開隆堂、この2者ともに本当によくできているなと思います。開隆堂と東書、共通して見られるところが、安全、衛生、生活、これをより良くする工夫、あと、家庭や地域等における実践化、各教科とのつながりや発展的な内容の改善工夫、これが東書あるいは開隆堂に見られます。よくできていましたね。

もう少し具体的に突っ込んで詳しく見たいんですが、例えば東京書籍ですけれども、これは構成上の工夫で5年と6年の4ページ、この中に単元のはじまりに学習の進め方のステップ、これが書かれているんですね。これは非常にいいなということで、とりわけこのサイクルを意識しやすい構成、それになっていました。あと5、6年生の20ページ、21ページ、ここに調理の手順、これが細かい写真や図で示されておりましたし、切り方の図も分かりやすい示し方でした。あと5年、6年の16ページには教科書のワークシートの役割を果たしているんですね。そういう点ではまさに調べ学習など児童の活用する場面では子どもたちが活動的に進められるのではないかと。

先ほど嶋田委員あるいは松野委員からも出たように、立川市の中に家庭科専科というのはいらっしゃらないんですね。そうすると誰がやるかということ、学級担任がやるわけですから、そういう意味では学級担任が授業がしやすいものの教科書、そういうものを今後研究していく必要があるだろうと、そのように考えているところでございます。

○小町教育長 家庭科に関しまして、調理とか裁縫とか、かなり手順が入り組んでいることがございます。それを子どもたちに丁寧に教えるというときに、教科書は大変に重要な役割をもっているかなと思っています。そういった意味でいうと、その手順含めまして基礎・基本が丁寧に取り上げられている教科書を採択すべきだなというのが1点。

それから、本市で取り組んでおります地域との関わりの中で、本市は立川市民科ということで、単に共同学習というだけではなくて地域、社会の担い手としての視点を持った市民を育てるということで、総合的な学習を含めまして小中学校全校で取り組んでいるわけ

でございますので、その地域の中での基本的な活動に関しまして、どういうスタンスでまとめられているかというのはとっても重要なポイントになるかなと思っています。

この2点を視点としながら教科書を選んでいければいいかなと思っています。

○小町教育長 次、保健です。嶋田委員。

○嶋田委員 東京書籍の教科書は大変内容が充実していて、いいなというふうに思いました。それから、光文書院は導入がいいなというふうに思いました。

○小町教育長 伊藤委員。

○伊藤委員 私も各者それぞれ工夫をされているようには思うんですけども、光文書院はとても見やすく、私は理解をしやすい形であるかなという気がいたします。東京書籍もいいんですけども、少し気になるところが何点かあったり、写真のほうで気になるところがあったりしたこともありますので、学研みらいと光文書院が私は好きな教科書であると、個人的な感想ですけどもそういうふうに思いました。

○小町教育長 松野委員。

○松野委員 私は光文と東書を考えたんですが、何と言っても大事なのは問題解決的な学習がしやすいかどうか、この辺りが一番の観点であります。光文書院は、問題、まとめが合致していたり、あるいは学習過程に話し合う、調べよう、広げよう、深めよう、やってみよう、こういう流れもまた分かりいいかなというふうに思いました。そういう点で、どちらかといったら光文のほうがいいなというふうに考えております。

○小町教育長 田中委員。

○田中委員 保健関係では東書、大日本、文教、光文、学研と、この5者とも共通して工夫をされております。とりわけ主体的・対話的で深い学び、そういうことがある程度できて、なおかつ活動的にできる。中をずっと拝見しますと、絵とか写真、あるいはアスリークのページがたくさんそれぞれあるんですね。つまり、そういう中で児童が興味・関心、それを持って学習できるような工夫をしているところはとりわけどこなのか。その辺りをもうちょっと丁寧に見ながら考えていきたいなと思います。教科書によってはオリンピックあるいはパラリンピックのメッセージがあったり、あるいは児童の意欲向上が期待できる、そんな教科書もありますけれども、そういうことも含めて、しっかり5者をもう一回調査研究をしていきたい、そう思っているところでございます。

○小町教育長 保健に関しましても、学力のベースを支える体づくり、心づくりというところに大きく関係する教科かなというふうに思っています。学び方も、課題をつかんだり、調べる、考えるというポイントが重要なことは申すまでもないんですけども、保健に関しましては、学んだことをどう自分の生活に生かすかという視点はとっても大事なのではないかなと思っています。子どもたちの生活がSNS含めて、ゲームを含めて、かなり問題状況が大きくなってきておりますので、そういったことも含めて教科書の採択に当たってはその視点、学習のまとめを自分の生活にどう生かすかという視点を明確にしている教科書を採択したいと私は考えております。

はい、伊藤委員。

○伊藤委員 あとから申し訳ありません。この保健の教科書を拝見していく中で、やはり理科的な視点、どうして例えば体のしくみだったり、当然関係のあるところですけども、そのところが少し足りないような全体的な感じがしています。特に病気に関しては、いろんな意味で科学的な要素を入れるともうちょっと理解がしやすい、子どもたちも理解ができるんじゃないかなという視点が、もうちょっと入ってくるといいかなという気がします。

○小町教育長 次、英語科です。ご意見お願いします。伊藤委員。

○伊藤委員 一番悩まされたのが英語でございます。やはり現場の先生方が、子どもたちがどういうふうにすることによってより英語を好きになってくれるか、というようなところをアドバイスをいただかないと、なかなか私のような直接教育にしている者でない者がこの教科書を拝見したときに分からないというのが、はい、素直なところでございます。是非、学校の先生方からいただきましたアンケートとか、そういうことも含めながら、また検討していきたいなと思っております。

○小町教育長 松野委員。

○松野委員 検討委員会の報告等見ていきますと、やはり今までやってきた「We Can」この流れを受け継ぐような学びが子どもにとってはやりやすい、この意見がずいぶんありまして、私もそのように思います。そういう点で光村、東書、教育出版を挙げてみたわけでありますが、光村は学ぶステップの過程が分かりやすい。東書、光村は、単元のゴールと各時間のねらいが示されて振り返りがしやすい。それから「We Can」の流れですね、子どもが学びやすいこと。

あと、最近では本当に教科書にQRコードが。私は書写で言うべきでしたが書写でやってみたんですね。実に筆の動きが分かりいい。たぶんこの英語もQRコードやるといい発音や何かが展開されるんでしょう。こういうふうなことがいろいろ工夫されている教科書がありますが、今言った理由から、光村や東書、教出、この辺りを考えてみたいなと思っております。

○小町教育長 ほか、ございますか。田中委員。

○田中委員 英語については、東書、開隆堂、学図、三省堂、教出、光村、6者がそれぞれいろんな工夫をされていますね。その中から共通して見て取れるものは、聞くこと、読むこと、話すこと、やり取り、その上で話すことの発表、書くこと、つまり5つの領域がしっかりそれぞれ押さえられている。そういう中で大事なのは音声に十分慣れたり親しんだりする、こういうことも大事ですし、あわせて文字に名称、音があることに気づかせたりする、こういう改善工夫もされていましたね。言語活動を行うために必要な語彙あるいは表記等、こういうものはしっかり定着させようと。その上で巻末を見ますと、別冊のところに語彙リスト、こういう工夫がそれぞれのこの6者なりにいろいろ工夫されていました。

その上で、物の言い方が抽象的な言い方で恐縮なのですが、例を挙げますと、東京書籍

ですと別冊の Picture Dictionary、つまり単語と語彙書ですね、これが入っておりまして、習得に向けた多様な活動、これが期待できるのではないかと。何と言っても基礎・基本の定着が大事ですので、この習得をしっかり助ける内容になっていたのかなと思います。あわせて5年生の52ページ、ここに異文化理解について写真が出て、説明を通した解説が出ておりました。少しでもしっかりとした教科書、充実した内容を、ということで考えられたのかなと思います。あと5年生の48ページ、ここに単語の意味を絵で表わして非常に分かりやすく補足されている、これなんかも一つの工夫かなと思います。

これらの教科書を見たんですがA4判で少し大きいかなと思いますが、実は重さが適当というかちょうどいいと言うんですね。これも先生方から出ていました。大きく見えるけれども重さは適切とか、適当ですよ。そういう面で改めて5年生の49ページ、CLIL、内容言語統合型学習というんですけれども、この考え方を取り入れながら、なおかつ別冊で Picture Dictionary に見開きで「Unit」、このことを明記している。これ「Can Do」というんですね、これを明示している。こんな工夫がされている。

じゃあ東京書籍かと言ったら、ほかの教科書も例えば開隆堂であったり学図であったり三省堂であったり、教出であったり、光村であったり、それぞれが何らかの工夫をされているので、その辺りをもう一回、立川市の子どもたちのために、また、先生方が使用する上で使用しやすい、そんな観点からしっかりと今後調査研究を進めていきたいと、そのように考えておるところでございます。

○小町教育長 英語に関しましては、今回、教科書の展示場所を増やしまして市民に広くご意見をいただいております。そんな中で是非、英語嫌いをつくらないでほしいという市民の意見が出ておりまして、まさにそのとおりのかなというふうに思っております。小学校の英語は中学校の英語にどうつなげるか、とても重要な部分かなと思っておりますので、教科になってしまうと、どうしても学びの中で英語に対する苦手感を早々と育成してしまうことにならないような教科書ということで各者工夫がされているかなと思っております。そういった意味でいうと、編集に工夫が見られるということでは、なかなか甲乙つけ難いところがあるかなと思っております。

1つあえて申し上げますと、光村図書出版の趣意書にございます、異なる言語や文化、価値観を受け入れる心を育む教科書、ちょっと私はここを揺さぶられたわけでございまして、教科書を見てみますと、それぞれ5年生、6年生の2ページ目ですけれども、5年生の2ページ目には、「英語は、世界中のさまざまな国の人々と気持ちや思いを伝え合うためのしゅだんです」と明確に書いておりまして、英語は学ぶことは目的というよりも、それを使ってどう気持ちを伝え合うかというところをポイントにおいている、趣意書のどおりの編集をされているかなと思いますし、なおかつ6年生のほうは2ページに、「やってみよう。」ということで、「まちがいをおそれずに。」ということで、「言葉の学習には、時間がかかります。だれもがまちがいをしながら、正しい言葉の使い方を理解していきます。英語を使ってできることを少しずつ増やし、中学校の学びへとつなげていきましょう。」とい

う捉え方をしています。まさに子どもたちが興味・関心を持って、英語好きになって中学校への学びへつなげるというような方針が明確に示されているかなと思っています。こんな視点で最終的には教科書を採択していければと思っていますところでございます。

○小町教育長 では、道徳に移ります。松野委員。

○松野委員 先ほども申し上げましたが、先生方が授業改善に向けて工夫できるような教科書であってほしいというのが一番の私の願いであります。そういう点で先ほど分冊、つまりノートでの話をいたしました。しかも最近この教科書、もう本当に発問等が並べられておりますから、逆に授業を私も参観していますと、子どものほうが言うわけですね。「先生、これまだやってないよ」とか「これはどうなっているの」。そうなりますと、そうすると先生方が教科書を出させないんですね。「話を聴いてください」。そうなってくると、これまたどうなのか。ここはやはり説明の少ない、先生方の助けが少ない東書のほうが私はいいなというふうに思っておりますし、しばらく使ってみることも大事だなというふうに思っております。内容的には本当に分かりやすい教科書であります。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 以前に、いっぱい、いろんなご意見をいただきながら選んできた中で、今私も、もう一度見ても「タマゾン川」というのが意外と心に残っています。立川を流れている川、市民科のもととなる形になるところもありますので、そうやって選んだ教科書はもう少し使ってみたいなというふうに思っております。

○小町教育長 ほか、ございますか。田中委員。

○田中委員 道徳については、東書、学図、教出、光村、日本文教、光文書院、学研、廣済堂、8者がそれぞれいろんな工夫をされております。とりわけ「特別の教科 道徳」の特質としては、指導方法の工夫の例がたくさん出ています、たくさんといってもある程度バランスもありますけれども。問題解決的な学習あるいは道徳的行為に関する体験的な学習、これをもとにしながら児童一人ひとりが考える道徳あるいは議論する道徳、それをしっかり充実しながら多様な教材開発、あるいは活用をして改善を図っている教科書がいいなと思っています。

今後検討するにあたっては、立川市としては児童一人ひとりの道徳性を高めようということで道徳授業地区公開講座、小学校が19校、中学校が9校とそれぞれ私どもが出向いて授業観察も含めて進めています。そういう中で道徳については、道徳的な判断力あるいは心情、実践意欲、態度、これをしっかりと育てようと。一言で申し上げれば実効性のある道徳性、それを本当に培うことができる教科書はどんなのかと、そういう点をしっかりと見ていきたいなと思っています。併せて、選定検討委員会なり調査研究部会での報告を考慮しながら、今後、あと21日間採択までありますので、しっかりと丁寧に見てまいりたいと、そういうふうに考えているところでございます。

○小町教育長 道徳は、「特別の教科 道徳」ということで、考える道徳ということで道徳的価値観を子どもたちに一方的に教えるというよりも、道徳的な価値について、まず自分を

ふり返るということを含めまして教科書はつくられているかなというふうに思っております。そういったときに先ほど松野委員からご指摘があったように、あまり発問とかを例示として多く出されている教科書ですと、子どもたちが発問に対する答えを、要するに自分の範囲を超えて背伸びして答えようとするというふうな場面も見られますので、やはり設問とか発問、考える部分に関しましてはシンプルにつくってあるほうがいいかなと思っております。

そんな中で言いますと、東京書籍が発問の取り上げ方は、かなり絞り込みがされているかなという感じがいたします。あと教育出版は、新旧の教材のバランスだとか、オリエンテーションの丁寧さ、一つ一つの特徴があらうかなと思っております。最終的な次回に向けての絞り込みを行っていただければと思っております。

○小町教育長 以上で、ご意見を締めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 本日は協議ということでございますので、本日それぞれ出されたご意見などを参考にしながら、次回、最終的な採択をしまいたいと思っております。

では、1 協議(2)令和2年度使用立川市立小学校教科用図書の採択について、きょうの段階での協議は終了したいと思います。

◎協 議

(3) 図書館の臨時休館について

○小町教育長 続きまして、1(3)図書館の臨時休館について、を議題といたします。

池田図書館長、説明をお願いいたします。

○池田図書館長 それでは、図書館の臨時休館につきまして、ご説明申し上げます。

本件につきましては図書館資料の適正化に向けての特別整理、いわゆる蔵書点検作業の実施のために条例の規定に基づきまして、臨時休館をいたしたいという内容でございます。

休館期間につきましては、11月から12月にかけて、中央図書館で1グループ、地区図書館で2グループに分けまして、特別整理実施期間をずらすことで図書館全館一斉休館を避けまして、利用者の不便が生じない体制をとることとしております。

特別整理蔵書点検作業の内容につきましては、3にお示ししたとおり、この項目に基づきまして作業を実施いたします。

4周知の方法でございます。従来どおり、「広報たちかわ」、ホームページ、ツイッター、館内掲示、図書館配布カレンダー、校長会等で周知を図ってまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

○小町教育長 説明ありがとうございました。

これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 今、図書館長から説明のありました方向で、無事故で円滑に進めていただくよ

うお願い申し上げます。

○小町教育長 ほか、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。それではお諮りいたします。1 協議(3)図書館の臨時休館については、提案のとおり承認することにご異議ございませんか。

〔「ありません」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、協議(3)図書館の臨時休館について、は承認されました。

○小町教育長 次に、その他に入ります。

その他はございますか。

〔「ありません」との声あり〕

◎閉会の辞

○小町教育長 それでは次回の日程を確認いたします。次回、第16回立川市教育委員会定例会は令和元年8月29日木曜日、午後1時30分から、302会議室で開催いたします。

これをもちまして、令和元年第15回立川市教育委員会定例会を終了いたします。

午後3時50分

署名委員

.....

教 育 長